

	焼津市と共同実施の管内景況調査 S 4 A 1 B 1 小規模事業者の副業人材に関する認識が弱く回収率が低かった。 A 評価
	2. 需要動向調査に関すること 新商品・改良商品の調査対象事業者数 S 4 A 1 C 1 事業者件数の増加が望ましい。 A 評価
	試食・アンケート調査対象事業者数 A 5 C 1 さらなる件数の増加を期待する。 A 評価
	3. 経営状況の分析に関すること 経営分析件数 A 5 C 1 概ね目標に達しているが次年度以降目標を増やしていく時に達成できるように注意をする。 A 評価
	4. 事業計画策定に関すること 事業計画策定件数 A 5 C 1 概ね目標に達しているが次年度以降目標を増やしていく時に達成できるように注意をする。 A 評価
	5. 事業計画策定後の実施支援に関すること フォローアップ対象事業者数 A 5 C 1 概ね目標に達している、今後件数が増加していく目標達成に注意していく。 A 評価
	頻度（延べ回数） S 5 A 1 目標に達している、今後件数が増加していく目標達成に注意していく。 A 評価
	売上増加事業者数 A 5 C 1 コロナ禍での売上増加は評価できる。 A 評価
	利益率1.5%以上増加の事業者数 A 5 C 1 コロナ禍の影響で目標件数にやや届かなかったが、事業者の努力が十分確認された。対象が法人ならば営業利益率か、経常利益率かで支援結果の評価は別れる。 A 評価
	6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること 展示会事前セミナー開催件数 S 5 B 1 件数的には目標達成している。 オンライン配信するなどセミナー受講者の増加を図るなど、事後の展示・商談会参加有無に関係無く、受講者を増やす工夫があったか。 A 評価

	展示・商談会出展事業者数 A 評価 A 5 B 1 コロナ禍で展示会、商談会が中止になった中、ある程度の結果を出している。 コロナ禍でむしろバイヤーの関心が既存商品から移り変わるなど商談機会はむしろ 生み出しやすい状況でもあり、オンライン商談等の企画が出来ればなお望ましい。 展示・商談会成約件数 C 評価 A 1 C 5 目標件数に達していない。 商談前セミナーの講義内容が参加者から評価が高いということであるので、今後は積 極的な商談会への参加を呼び掛けていただきたい。 プレスリリース資料作成支援者数 C 評価 A 3 C 3 目標件数に達していない。 コロナ禍でむしろメディアはネタを探していた。 展示会等の対人事業よりも明らかに実施しやすい支援アプローチであり、未達なのは 残念で改善余地が大きいと思われる。 マスコミ掲載・放映件数 C 評価 S 3 B 3 目標には達成しているが、掲載、放映されればよいものではない。 売上増加事業者数 C 評価 S 3 B 3 目標には達しているが、プレスリリース支援が適切に行われれば目標を上回る支援成 果が出せたのではないかとと思われる。 7. 経営指導員等の資質向上に関すること 職員の資質向上に向けた研修受講の計画的取り組み状況について A 評価 S 5 B 1 計画通りに実行されている。 職員間の情報共有とミーティングの開催について A 評価 S 4 A 1 B 1 具体的な成果の状況が見えにくい。 月 1 回の定例会議、経営カルテへの掲載、セミナー・研修資料の提供など スキルアップの研修会受講状況について A 評価 S 5 B 1 計画通りに受講できている、支援能力向上のため、民間主催のマーケティング分野研 修を受講してみるのも一考である。 8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウなどの情報交換に関すること 志太 3 市商工会議所・商工会広域連携相談事業 A 評価 S 5 B 1 目標に達している。焼津市の企業数から見れば、受講者をもっと増やせる。 日本政策金融公庫との情報交換会 A 評価 S 3 A 2 B 1 予定 3 回のうち 2 回は中止となっている。
--	--

	静岡県信用保証協会との情報交換会 － 6 主催者都合による開催中止のため評価なし。 税理士会と藤枝税務署管内関係団体との打合せ会 S 5 B 1 予定通り開催できている。 焼津市経済部との定例会議 S 4 B 1 C 1 ある程度の成果は達成できている。 単なる定例報告会とならないように、会議の在り方、内容を工夫する。 9. 地域経済の活性化に資する取り組みに関すること 焼津みなとまつり A 2 C 1 － 3 協議会は開催されているが、イベントは中止のため評価せず。 焼津市水産業クラスター協議会 S 4 A 1 B 1 計画通りに事業が実施されている。 志太3市(焼津・藤枝・島田) 合同企業ガイダンス S 4 A 1 B 1 コロナ禍のためオンライン開催で計画通り実行できている。受講者も十分である。 地元企業魅力発見バスツアー S 3 A 1 B 2 バーチャル開催であるが、計画通りにできている。 参加企業の満足度に対する課題解決の検討を要する。 全体講評（次年度に向けた改善等） 支援事業所数を確保することも重要であるが、消費者需要動向やバイヤーからのアドバイス等を事業者にも広く伝えることも、今後の支援の効果を上げるポイントになると考える。 地域の経済動向調査は、より広範に実施できるよう取り組んでいただきたい。 新商品の開発、販路拡大、事業計画策定など、事業者の参加等を積極的に促進していただき、より多くの事業者に対して実効性のある支援を実施していただきたい。 事業者にとって厳しい社会情勢が続いているため、個々の事業者の取り組みだけでは乗り切ることが困難です。 会員企業・地域経済の活性化のため、引き続き支援をお願いします。 引き続き意欲的に経営改善に取り組む小規模事業者を支援していただきたい。 これらの環境変化をマーケティング機会として捉え、新たなビジネスチャンスとして経営の糧にすることが望ましい。 この環境に適合した商品開発が望まれる。例えば焼津の水産加工業者を例にとれば、外食から内食への変化に対応した商品開発と販売チャネル構築、価格、プロモーションも然りである。 消費者需要動向調査においては、市場細分化と顧客の類型（ターゲット設定）を通じて、製造業者は自分が作りたいものではなく、顧客が求めるものを生産したほうが売上増に繋がることを知った。この繰り返し、さらに知識を深め、企業経営に貢献するものと考えられる。
--	--

今後もより一層、マーケティング志向に基づいた活動が期待できる。

I-6の個別マーケティング支援については、成約件数が目標値に未達であり、更なる取り組み強化が求められる。個別事業所のマーケティング力向上は一朝一夕に実現できるものではなく、I-2事業とも連動して継続的な取り組みを行って欲しい。

件数にフォーカスされた報告書であり、中身（事例）が見受けられない点について、物足りなさを感じた。

伴走型支援を通じて支援と成果がリンクした成長企業を作るのが本政策の意図かと思われるため、ぜひとも事例について積極的な開示（評価者だけでなく、会員に対しても）を期待したい。それが結果的に、今は会議所事業に無関心である企業が、会議所の支援を期待し、それがより大きな支援結果を生み出す循環に繋がるのではないか。

ぜひ組織内の案件会議を通じて個社支援ノウハウの共有が進むことを期待したい。

この事業は、目標を設定して数値を評価するものとなっているが、内容を見ていくと事業者にとってヒントとなることが多く記載されている。

小規模事業者例えばコロナ禍ではバイヤーはどのように見ているのかななどをフィードバックされると良い。

評価結果	対象	28項目	A評価	22項目
			C評価	6項目

総合評価は、全28項目中22項目がA評価で78.6%となり、総合評価の基準に照らし、令和3年度経営発達支援計画事業の総合評価は『B』評価となる。

4 委員からのコメント

3年前から比較すると、あきらかに地域の企業は、マーケティング志向に変わってきていることが感じ取れる。今現在の課題はコロナアフターをどう捉えるか、コロナが終焉した時にどういった変化があるか。先行き不透明であるがコロナ前には戻らずあきらかに違うことになる。ニューノーマル、価値観、消費者の生活スタイルにあわせ小規模事業者はコロナの現実をどうビジネス化に置き換えるか。

新しい生活スタイルに合わせた商品開発、販売スタイル等に変えることが求められる。中小企業白書を見ると6,7割はコロナアフターも現状維持を考えている。

経営者の平均年齢も高くなっている。コロナで無利子融資を受けている企業の中で返済ができない企業が出てくる。これを機会に廃業される方もある。

平等ではなく成長する企業への重点的な支援が必要となってくる。

バーチャルバスツアーについては、豊橋の学生の遠隔参加、また全国のマーケティング研究者へ広げることができる。

委員評価基準はできれば5段階にしてもらいたい。A評価B評価の判断が難しい。

総合評価もB評価にすることができずC評価となる見直しをしてもらいたい。

県は小規模事業者に対し幅広く経営指導するに対し、国は不平等主義で伸びる会社に対する徹底支援を求めている。商工会議所は、マンパワー不足の中、年度を重ねると目標数値を伸ばすビルドアンドビルドの仕組みとなっている。会議所にとって持続的計画を進めるにあたり効率的に出来るような業務の再設計に取り組んでいただきたい。

今回の報告の中で、印象的だったのは、売上が伸びた、利益率が上がった項目で成果が達成されていること。つまり、その前の経営支援（経営状況の分析、経営計画の作成、計画作成後の支援）がしっかりできている。次年度以降目標が伸びる中どうクリアさせていくのかしっかり取り組んでいただきたい。職員の研修は大事になってくる。

マーケティングについては、件数より質という事で、内容を高めていただきたい。

経営支援の成果事例を小規模事業者にフィードバックするだけでなく他の企業にも公

表し共有してもらいたい。

焼津の企業も若い経営者に代替わりが進んでいる。若い経営者が商工会議所の活動にどう入ってきているのか、若い方は、東京で修行してきて、気軽に相談できる友人がいて、地域のひとに頼らなくても自分で何でもできてしまい地域の団体に所属しなくても良いと考えている人たちもいる。

市役所と役割分担をして、若い人たちが関心を持ってもらえるような取り組みをしてももらいたい。

評価基準については、見直したばかりであるが、もう少し審査しやすいように考えたい。限られた人数での支援であるが、掲げられた目標値のクリアに向かい事業に取り組んでももらいたい。

コロナ後に向かい小規模事業者への伴走型支援に取り組んでいく。

5 その他

今後のスケジュール

6/20	正副会頭会議 評価委員会の報告・承認
6/28	常議員会・通常議員総会への報告
7/ 1以降	焼津商工会議所ホームページへの公表

令和4年6月6日